

(振興局調整費)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	七尾 清己	農業振興普及課	企画・振興班	赤川 桃子	0186-23-2123	「農の生け花」によるおもてなしの研修事業	鹿角地域の農村の、古農具類や果樹、野菜等の農産物、自然の草花を利用したオブジェ、いわゆる【農の生け花】の展示を通して鹿角地域の農村の持つ魅力をアピールする。	80,984	直営	5月28日小坂町、11月15日鹿角市の2回にわたり、季節の草花・古農具を利用した農の生け花の講習会を開催	県	県民	平成25年5月28日	講習会の参加者が「アグリフラワーズ」というグループを発足させた。講習会終了後も、会場に作品が展示されるなど、今後も続けてほしいとの要望があった。	グループ等の自主的な開催について支援していく。
						平成25年5月28日～平成25年11月15日									
農林部	七尾 清己	森づくり推進課	林業振興班	高橋 公明	0186-23-2275	スギ樹皮利用実証事業	果樹センターにおいて、園内管理歩道や果樹園の保水材としてスギ樹皮を敷設し、雑草の繁茂防止や、株下の乾燥・土壌の硬化防止等の効果を検証する。	157,500	直営	7月5日、8日にかづの果樹センターのブルーベリー畑において、敷厚を10cm、12cm、15cmの3種類で敷設	県	地元農家等	平成25年6月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月下旬と9月下旬に現地状況を確認。</li> <li>・雑草繁茂は3種類とも少なく容易に抜け、株下の乾燥は10cm、12cmではやや認められ、15cmでは認められない。また株下の硬化はいずれも認められない。</li> <li>・以上のことから15cm敷厚が良いと判断される。</li> <li>・7月20日に開催された果樹センター参観デーの入場者からも関心が寄せられ、樹皮チップ製造元の森林組合へも問い合わせがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮チップ敷設の効果が確認された。</li> <li>・チップの敷設に関しては、雑草の生えていない春先とすることや、チップが冷めた状態で行うか、散水しながら行うとよいことがわかったため、併せてPRし普及を図っていききたい。</li> </ul>
						平成25年6月4日～平成26年3月31日									
農林部	七尾 清己	農業振興普及課	果樹産地支援班	熊谷 一	0186-25-3231	鹿角第三の果樹ブルーベリー事業	果樹センター参観デーにおける摘み取り体験や、初心者向けの栽培講習会及びポット栽培などの紹介を実施し、ブルーベリー栽培への理解を深める。	101,661	直営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①7月20日にかづの果樹センターを会場に参観デーを開催し、500名超の参加者が来場</li> <li>②ブルーベリー栽培初心者向けの講習会を行い、ブルーベリーの栽培方法を指導</li> <li>③各ブルーベリーの品種の食べ比べなども行い、ブルーベリーの品種の特性を紹介</li> </ul>	県	農家及び県民	平成25年6月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者向けの栽培講習会によって、参加者に栽培の基礎技術を指導できた。</li> <li>・ブルーベリーの摘み取りや食べ比べによって、さらにブルーベリーへの関心が高まった。</li> </ul>	更なる消費拡大のためには、若年層の果物離れが問題となっていることから、加工品や美味しい食べ方などの情報の提供も必要である。
						平成25年6月18日～平成25年7月20日									
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	課長	齋藤 政美	0186-22-0456	縄文遺跡群世界遺産登録推進PR事業	大湯環状列石の世界遺産登録に向け、地元気運醸成を図る必要がある。	490,000	委託	大湯環状列石の世界遺産登録に向け、㈱秋北バス所有の高速バス「みちのく号」の後部にラッピング広告を掲示しPR事業を実施	県	県民	平成25年7月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約後、60回以上の運行により、鹿角市や大館市のほか、岩手県など広域にわたりPRを図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大湯環状列石の世界遺産登録に向け、地元気運を更に高めていくためには、継続してPR事業を実施する必要がある。</li> <li>・教育庁生涯学習課文化財保護室が平成26年度より当該事業を継続して実施している。</li> </ul>
						平成25年7月16日～平成26年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	七尾 清己	農業振興 普及課	企画・振興 班	赤川 桃子	0186- 23-2123	鹿角地域「観光・特産 物PR」事業	鹿角地域の観光及び 特産品を県外に向け てPRするために、東 北自動車道花輪サー ビスエリアにおいて 「北限のモモ」等の試 食販売を行う。	78,578	直営	東日本高速道路株式会社と 協働で、花輪サービスエリア にて「北限のモモ」やその他 農産物の試食販売を行い、 鹿角の特産品を県外に向け てPR	県	県外者	平成25年7月23日	サービスエリアでの宣 伝・販売はPR効果が 高かったが、販売アイ テムが少なく、箱買い 等の購入者の要望に 応えることができな かった。	・イベントや宣伝用に 利用する商品アイテム を増やす等、販売戦 略を検討する。 ・モモの評価等を検証 するため、アンケート 等の配布・回収等も必 要である。
						平成25年7月23日～ 平成25年9月16日							平成26年10月31日		
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	企画振興班	土橋 明日弥	0186- 22-0456	鹿角地域食農観連携 推進支援事業	特色ある鹿角食材の 販路を拡大するため、 県内外へのPR活動 が必要である。	212,475	直営	①「秋田がんばろう市」開催 への試食品提供 ②鹿角食材を使用した料理 教室の開催 ③「地域活性化フォーラム」の 開催	県	八幡平地 域づくり 協議会等	平成25年8月20日	・料理教室では、メ ニュー提案や学習会 の実施により、かつの 牛の消費拡大と普及 啓発が図られた。 ・アンケートの結果、 「地産地消を考える きっかけとなった」来 年度の開催も希望す る」などの回答が寄せ られた。	特産品のブランド化、 既存商品の磨き上 げ、売り込みなどの課 題は、今後も継続した 取組が必要である。
						平成25年8月20日～ 平成26年3月31日							平成26年10月31日		
福祉環境部	相澤 寛	健康・予防 課	健康・予防 班	成田 智尋	0186- 52-3952	鹿角地域における冬 期間の感染症発生予 防対策事業	・感染性胃腸炎発生 時の対応に関する リーフレットを作成し、 社会福祉施設へ感染 拡大防止を啓発する。 ・社会福祉施設の職 員等を対象にした研 修会を開催し、施設内 における感染症予防 対策及び発生時対応 についての周知徹底 を図る。	81,000	直営	①感染性胃腸炎発生時の対 応に関するリーフレットを 3,500部作成し、社会福祉施 設へ感染拡大防止を啓発 ②11月12日に社会福祉施設 の職員等を対象にした研修 会を開催し、施設内にお ける感染症予防対策及び 発生時対応を周知徹底	県	鹿角地域 の社会福 祉施設職 員他	平成25年9月17日	感染症対策研修会に ついては、感染症発 生時の対応等につい て施設関係者に再度 認識を深めてもらうこ とができた。今回の研 修を基に施設内で勉 強会を開催するという 施設もあり、感染症発 生予防対策として効果 的であった。	・今回は高齢者福祉 施設等を対象に研修 会を実施したので、保 育園や幼稚園なども 対象に研修会を開催 したい。 ・具体的な演習を希望 する意見もあったの で、アンケートを参考 に研修内容を検討し ていく必要がある。
						平成25年9月17日～ 平成25年12月4日							平成26年10月31日		
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	企画振興班	保坂 小春	0186- 22-0456	鹿角地域振興局「知っ 得」広報推進事業	地域振興局の広報機 能を強化するため、 「鹿角きりたんぼFM」 を活用し、県主催又は 共催等の各種事業を 広報するとともに、ラ ジオのリアルタイム性 を活かし災害時や緊 急時に情報提供を行 う。	149,000	委託(単 価契約)	10月8日に広告単価契約を締 結し、71回のCMスポット放送 を実施	県	鹿角地域 の住民	平成25年10月8日	・FM放送を視聴した 住民が、県イベントへ 参加する等の広報効 果が図られた。 ・冬期間における雪下 るし注意情報等の普 及啓発が図られた。	様々な手法による広 報活動は重要である ことから、CMスポッ ト放送だけではなく、番 組提供による放送も 検討し、地域住民の求 める情報提供に努め る必要がある。
						平成25年10月8日～ 平成26年3月31日							平成26年10月31日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	七尾 清己	農業振興 普及課	課長	五十嵐 宏明	0186- 23-2123	高校生が創る「鹿角の 食材クリエイト事業」  平成25年10月29日～ 平成26年3月31日	鹿角地域の食材を利用した新たな加工品レシピの開発を行うため、花輪・十和田高等学校の生徒によるレシピ開発や、消費者PRを実施するとともに加工を通じた消費拡大を図る。	83,592	直営	①花輪・十和田高等学校食物部で、鹿角地域の特産物であるエダマメ、ブルーベリー等を使った新たな加工品を計7品目試作し、校内試食を経て改善を実施 ②2月に鹿角市内女性起業家、エダマメ等生産者、振興局関係者参加のもとで中間発表会を開催	県	花輪、十 和田高等 学校食物 部	平成25年10月29日  平成26年10月31日	・高校生の発想による新たな加工品開発により、地域食材のアピールにつながる取組が始まった。 ・両校食物部では地域食材を知るとともに生産者との意見交換を通じて地域社会とのつながりが広がった。 ・生産者にとっては、加工品としての新しい展開に触れることにより自らの生産物の可能性を改めて認識する機会となった。	更なる新規メニューの考案、加工技術の向上、ネーミング等の検討を進める必要がある。